

平成21年10月12日

民主党秋田3区総支部殿

成瀬ダムをストップさせる会

代表 奥州 光吉

横手市十文字町植田字一ツ屋71

TEL 0182-44-5137

### 国直轄工事「成瀬ダム建設」について

先の衆議院選挙における貴党のご奮闘と、歴史的な勝利に心から敬意を申し上げますと共に9日前原国土交通大臣から発表された、成瀬・森吉山・鳥海ダムを含む全国48ダム建設一時凍結の方針は、私達「成瀬ダムをストップさせる会」の運動に大きな光明を与えました。2000年11月に鳩山さんから発表された「緑のダム構想」がまさに、ダム問題の核心を捉え、自然環境の摂理に整合するからです。

民主党への政権交代によって、選挙民の大きな期待に応えるべく今後のご活躍に期待しながら、私達もその運動の一翼を担い、できる限りの支援を惜しまず、マニフェストの実現に向けた取り組みを生活の現場から進めてゆきたいと考えております。

今「ダム造りの時代」は終わっています。「緑のダム構想」にもありますが、ダム先進国と言われるアメリカでは、既に次々にダムを撤去し、如何にして元の川に戻すかの作業が重ねられております。九州は球磨川の「荒瀬ダム」も日本では最初に撤去されるダムになるのではないのでしょうか。四万十川上流の小さなダムですが、撤去の検討が進められています。

「成瀬ダムをストップさせる会」としての要望をまとめましたので、ご検討の上よろしく取り計らいをお願いいたします。

### どのように考えても 納得のいかない「成瀬ダム」建設

#### 40年前の要望に基づく計画が「今 何故？」

成瀬ダム建設のための秋田県による予備調査が始められたのは、1973年（昭和48年）です。皆瀬ダム（昭和38年完成）は出来たものの一部の地域で濁水・風水害に遭っていた。まだいわゆる「減反政策」は始っておらず、米の増産が大きな課題であった時代です。

（いまさら申し上げるまでもなく、現在の米の生産調整は34%の減反を強いられています。）また、人口の減少も徴候はあったものの現在ほど顕著な状態にはありませんでした。

確かに40年前の稲作農家の切なる願いではあったものの、現在では農業を取り巻く情勢、人口の減少などあまりにも変わりすぎ、むしろこのような巨大工事は、財政的に社会のお荷物・大きな負担になっています。

多目的の「灌漑用水・治水・適正流量の維持・発電・水道水」に切実な課題はありません。

かつて 濁水がひどかった 横手市大雄地区の一部では地下水をポンプアップして田んぼを作っていましたが、ここ数年そのポンプは稼働していません。「皆瀬・成瀬頭首工」と用水路の改良工事によって、ダムのない現在でも、水は十分に行きまわっています。

ダム建設予定地は、成瀬川源流域であり、集水面積が小さくダムに水をためても、治水の効果は微々たるものです。下流部に多くの山や沢があり、治水の名目は成立しません。

確かに田植え時期を前後して川の流れがほとんどなくなるところが発生しますが、それで生活に窮する住民はおりません。

発電・水道水もしかり、工業用水を必要とする工業団地も、会社の撤退などもあり、水利権を購入しても「使い道がない」という状況になります。

### 地滑り常習地帯で「巨大ダム建設」コストは大丈夫なのか？

ご存知とは思いますが、昨年6月14日の「岩手・宮城内陸地震」では、栗駒山を挟んだ宮城県の「荒砥沢ダム」は大規模な土砂崩落を起こし、甚大な被害を被っています。（参考文献 岩波月刊「世界」'08.12「ダムと地すべりに浪費される巨費」まさのあつこ）ダム建設予定地や栗駒山一帯は道路の陥没や崩落でいまだ復旧していない国道が二箇所あります。そもそも周辺一帯は海底火山が隆起してできた、地質上問題の多い、ダム建設には向かない地質です。現在の進んだ土木技術では、ダムが造れないことはありませんが、膨大なコストを要します。地滑り対策、水漏れ対策などで、費用対効果として割り出された数字などは、まるで根拠の無い数字になります。このように計画された費用からすると、どこまでも膨れ上がっていく事は予想に難くありません。実際 現在建設中の「森吉山ダム」は、当初 910 億円で計画されましたが、平成 23 年完成見込み額は、現在で 1,750 億円に達しております。東成瀬村に隣接する岩手県奥州市に建設中の「胆沢ダム」は、1,360 億円で計画され現在の完成見込み額は 2,440 億円に膨れ上がっています。

成瀬ダム建設予定地の地質や、昨年6月の「岩手・宮城内陸地震」や1944年に噴火を記録している栗駒山一帯の地層の動きなどを詳しく知るために、日本科学者会議の地震・地質学者による 地盤、地質調査を十月に予定しています。

### 破壊される自然は もとにもどれない。

既に 国道の付け替え工事や橋脚工事、工事用の道路建設などによって無残にも、ブナとナラの共生する原生林は「ここまでやるのか」と思われるほどに伐採され、山肌はえぐられ見るも無残な状況を呈しています。レッドデータブックで絶滅危惧種になってしまったクマタカの営巣も追いやられてしまいました。猛禽類の古い巣のあった樹木は、付け替え道路の予定地にあつたため、いち早く伐採されてしまいました。

この地域には貴重な動植物が多く、現在 生物学者の生態調査を準備しています。

1997 年には 自由法曹団秋田県支部が「雄物川水系成瀬ダム建設事業環境影響評価準備書にたいする意見書」が提出され、その時点ですでに「成瀬ダムはその必要性が乏しく、貴重な自然環境を破壊するものであるから中止すべきである。本準備書はもっぱらダム建設を合理化するという目的のために作成されたものであり、行政手続き上違法である」とされています。

成瀬ダム建設予定地と山をはさんですぐ西側に「皆瀬ダム」が昭和38年に完成しています。皆瀬川には岩魚・山女魚・鯰・ウグイ・鮎・川海老など淡水生物の種類も個体数も豊富で、流域住民は貴重なタンパク源としてその恩恵に与ってきました。しかし皆瀬ダム完成後年を追うごとに川の状態は悪くなる一方です。川底の石には濁り水の細かい泥が付着し、その上に苔が発生し、それを鮎が餌とするため、鮎は成長が悪くなり、味も本来の味がしません。今皆瀬川で鮎釣りをする人は県外から来て そんな事情を知らない人ばかりです。鮎ばかりの問題ではありません。川に棲息する生物すべてに影響を与えています。川全体の生態系が変わってしまったのです。住民は言います。「川は死んでしまった。何とかして元の皆瀬川に戻したい」成瀬川にも量は少ないにしても釣りや漁をして川魚を食している住民がいます。決して成瀬川を皆瀬川の二の舞にしてはなりません。

**時が経過し必要性の無くなった「ダム建設」を 何故やめないのでしょうか。**

以上述べてきましたように 成瀬ダムの必要性は、時が経つに従ってその必要性が失われていきます。巨額な税金を浪費し 何故造り続けるのでしょうか？ 地方自治体の財政が窮状にあっても数百億円の負担金を拠出してまで「ダム」を造り続けるのでしょうか？

大手ゼネコンの裏金資金問題に見られるように、政治・官僚・業者の癒着構造が見え隠れします。この癒着の構造を断ち切らないと日本の山脈にはいくらかでもダムは造り続けられ、環境をズタズタにし、海岸線を変形させ、沿岸漁業を壊滅させてしまいます。

**一日も早い「成瀬ダム建設」の凍結と「建設見直し」の検討を**

民主党が選挙公約として掲げた、「公共工事の一旦凍結、再検討」、「緑のダム構想」に従って、一刻も早い「成瀬ダム建設凍結・見直し」の作業に着手していただきたい。

そして ダムの在るところ、または計画中・建設中のところは、これまで政治の陽の届かなかった所です。農林業は疲弊し、過疎化が進み、集落は存亡の危機に瀕しています。

「緑のダム構想」によって山間部には「林業」特に 自生する広葉樹の植栽に着手し、山を守り、山村に活力を与えて欲しい。生業としての農林業が成り立つ施策を講じて欲しい。

私達の 切なる要望です。秋田県本部との連携を密にし、対応されるようお願いいたします。